

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業		事務事業名 ヘルスパイオニアタウン事業（脳ドック助成事業）	
区分	番号	名 称	
章	1	やさしさと共生するまち	
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる	
施策	2	保健予防活動の充実	
小分類	1	成人及び老人保健の充実	
主要な施策	1	各種検診の充実と受診率の向上	
事務事業番号	005	事務事業コード	12211005
		事業開始年度	平成 1 4 年度
		事業終了年度	平成 - 年度
会計種別	国民健康保険特別会計		予算書上の事務事業名 脳ドック助成経費
部 名	保健福祉部	グループ名	国民健康保険 G
統合前または名称変更前の事業名			

事務事業の目的と成果	
目的	<p>（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> <p>脳ドックを受診することにより、脳血管疾患などを早期に発見し、早期治療につなげる。</p>
手段 （事業の内容・活動）	<p>脳ドックを受診した被保険者に対し、受診料の一部を助成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 頭部MRI、頸部MRA実施の医療機関 ~ 市補助金：17,000円又は11,750円で本人自己負担額：4,000円 ・ 脳CTスキャン実施の医療機関 ~ 市補助金：8,500円で本人自己負担額：2,000円 <p>検診料金の助成は、2年に1回としていく。</p>
成果	<p>（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> <p>脳血管疾患などを早期に発見し、早期治療につなげることで、医療費の削減につながる。</p>
根拠法令等	<p>（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p>

指標の推移							
区 分	単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	円	目標値	4,339	9,316	9,316	9,316	9,316
		実績値	3,990				
		目標値					
		実績値					

事業費の推移

区 分		単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金 名称	千円						0
	道支出金 名称	千円						0
	地方債 名称	千円						0
	その他 名称 国民健康保険税	千円	5,883	7,905	6,970	6,970	6,970	20,910
	一般財源 名称	千円						0
合 計			5,883	7,905	6,970	6,970	6,970	20,910
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費		職 員	千円	332	341			
		嘱 託 員	千円	0	0			
		臨時職員	千円	96	98			
		合 計		428	439			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 脳ドックについては、受診しやすい環境づくりが重要であることから、市が検診料金を助成することは妥当である
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 脳ドックにより、脳の疾患を早期発見・早期治療につなげることができる。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 脳ドックのMRI・MRA検査については、委託先の医療機関の受診者枠に制限があるため、過去の受診状況などを精査して対象者を選定していく必要があり、一方的に受診者数を増加させていくことは不可能である
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ これ以上経費を削減することは、受診者の自己負担額をあげることになり、受診率の低下につながるため、削減は難しい。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	脳ドックは、疾病の早期発見・早期治療につながるため、事業を維持している。
-----------	----------------------	--------------------------------------

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）